

**近畿自動車道紀勢線  
「新宮～大泊」  
計画段階評価  
対応方針(案)**

**国土交通省 中部地方整備局 近畿地方整備局**

**平成24年8月3日**

# 目次

1. 政策目標の設定及び対策案の検討 .....	1
2. ルート帯の検討 .....	2
3. ルート帯案の比較 .....	3
4. IC配置の検討（案） .....	4
5. 近畿自動車道紀勢線（新宮～大泊）における対応方針（案）	5

# 1. 政策目標の設定および対策案の検討

・地域が目指す将来像を踏まえて4つの政策目標を設定し、これらの目標を達成するための対策案として、当該地域における高規格幹線道路の空白域について整備方針を検討

◇地域の課題や将来像等を踏まえ、当該地域の政策目標を設定

地域や道路の状況や課題

圏域の将来像

地域の将来像

今後の高速道路のあり方中間とりまとめ

1. 災害時にも機能するネットワークの確保
2. 地域防災に資する『いのちの道』機能の強化
3. 高度な医療施設への速達性の向上
4. 主要な観光資源などの連絡性を高め、周遊性を確保

◇対策案の検討

## 【防災関連①】

災害時の迂回による社会経済活動や日常生活への影響を最小限に留めるため多重性の確保が重要

## 【防災関連②】

震災時の避難場所や緊急輸送路としての機能確保が重要

## 【医療関連】

高度救急医療病院のカバー圏を拡大

## 【地域振興関連】

地域の観光や産業面での活性化を図るためには、所要時間短縮が重要

災害時に機能する道路ネットワーク等とは

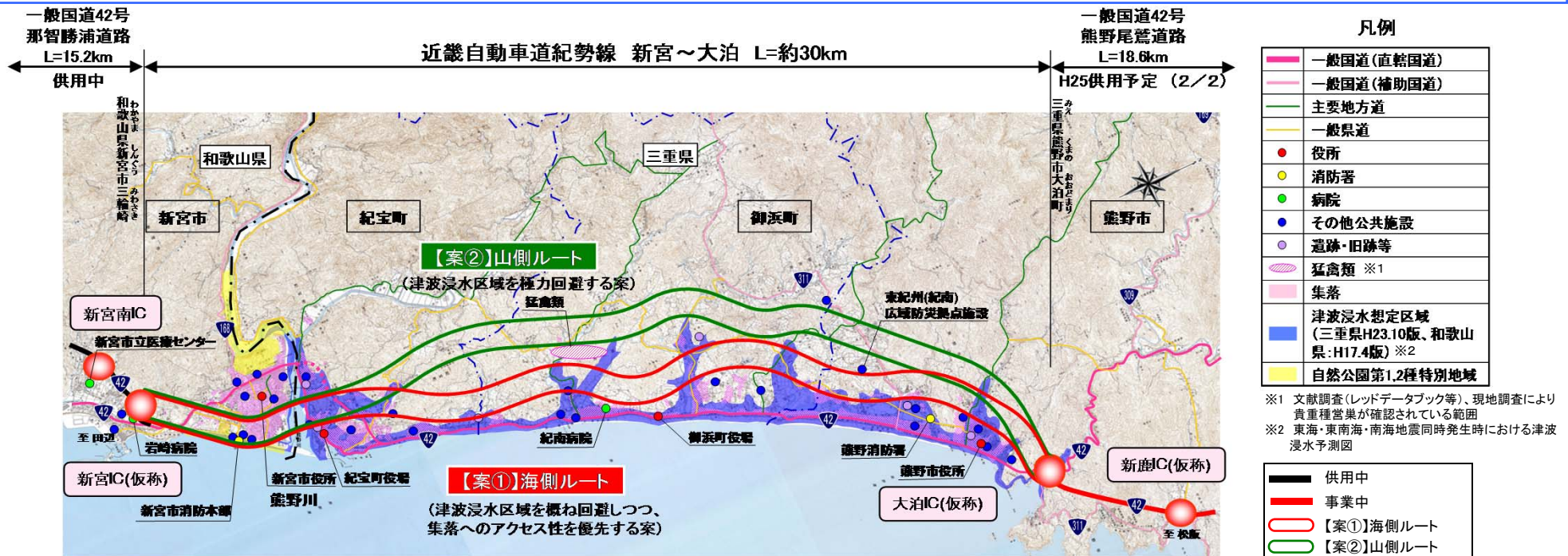
既存の道路ストック活用や高速道路による別線整備等の対策案を設定し検討

# 2. ルート帯の検討

■ルート帯は、高速道路を整備する2ルート案(海側ルート、山側ルート)で比較検討。

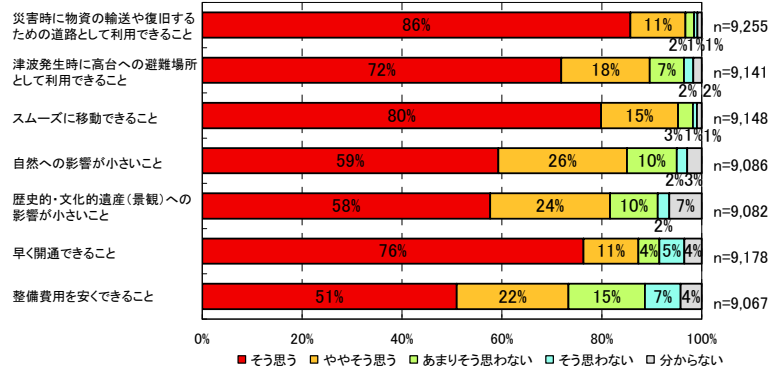
【ルートの考え方】

- ・津波浸水区域を平面的に回避、または、やむを得ず通過する場合は十分な高さを確保し、津波被害にも影響を受けない計画とする。
- ・スムーズに移動できるよう、既成の市街地・集落・防災拠点へできるだけアクセスしやすい計画とする。
- ・津波発生時の避難場所に利用できるよう集落にできるだけ近づけた計画とする。
- ・環境上配慮すべき地域、城跡・史跡、公共施設を避ける計画とする。



## <参考> 地域の意見聴取結果

Q:近畿自動車道紀勢線(新宮～大泊)のルートを検討する際、どのようなことに配慮すべきだと思いますか?



**ルートにかかる自由意見の抜粋**

- 早期開通が重要。整備費用よりも災害や救急面での効果を優先すべき。
- 可能な限り、海側を通る方が避難場所として機能する。
- 山側ルートは、難しい工事費用も高額になり心配。
- 海側ルートが最適と考えます。アクセスが不便では、だめ。長いトンネルばかりだと、火災発生時に命が守れない。
- ルートについては、一長一短あるが、壊れる事がなければ市街地に近い方がよい。津波の時に人が避難できる、丈夫で高さのあるもの。山側より海側の方が費用が安く早く開通できる。

# 3. ルート帯案の比較

評価項目※1	評価項目	【案①】海側ルート		【案②】山側ルート	
		津波浸水区域を概ね回避しつつ、集落へのアクセス性を優先する案。		津波浸水区域の極力回避する案。	
		80km/hで走行できる自動車専用道路			
		約30km		約31km	
スムーズに移動できること	アクセス性向上 (所要時間)※2	新宮IC～大泊IC 約22分短縮 (現況：約45分→整備後：約23分)	◎	新宮IC～大泊IC 約22分短縮 (現況：約45分→整備後：約23分)	◎
	医療施設への速達性 ※2	新宮市立医療センターの30分圏域人口 約1.3万人増(現況：約1.8万人→整備後：約3.1万人) 紀南病院～新宮市立医療センター間の所要時間 約24分短縮(現況：約38分→整備後：約14分)	◎	新宮市立医療センターの30分圏域人口 約1.2万人増(現況：約1.8万人→整備後：約3.0万人) 紀南病院～新宮市立医療センター間の所要時間 約20分短縮(現況：約38分→整備後：約18分)	△
災害時に物資の輸送や復旧するための道路として利用できること	災害時への適応性	代替路として機能。 津波からの避難場所として機能 工事用道路等を活用した緊急出入口の設置が容易	◎	代替路として機能。 沿道から離れた山間部を通過するため、避難場所としての機能は困難。 アクセスは内陸部の主要路線の経由が必要。	○
津波の発生時に高台への避難場所として利用できること					
歴史的・文化的遺産や景観への影響が小さいこと	歴史的・文化的遺産や景観への影響	歴史的・文化的遺産に配慮 設計段階において景観との調和に配慮	○	歴史的・文化的遺産に配慮 設計段階において景観との調和に配慮	○
生活環境への影響が小さいこと	生活環境への影響	全線別線で整備するため、影響は少ないが、ルートが集落を通るため、案②に対して支障となる家屋が移転	○	全線別線で整備するため、影響は少ない。	◎
自然環境への影響が小さいこと	自然環境への影響	猛禽類等の貴重種の生息域は避ける。 地形に沿うように通過することで、自然地形の改変が少ない。	○	猛禽類等の貴重種の生息域は避ける。 トンネルを多くして、自然地形の改変が最小になる。	○
早く開通できること	整備効果の発現	構造物延長が短く、建設期間が比較的短期。	◎	構造物延長が長く、建設期間が比較的長期。	△
整備費用を小さくすること	事業費	約1,300億円	◎	約1,500億円	△

※◎改善・満足している ○改善・満足しているが他案に比べてやや劣る △改善・満足しているが他案に比べて劣る

※1 政策目標をもとに評価項目を設定

※2 紀勢線全線供用時



# 4. IC配置の検討(案)

## 【IC配置の考え方】

- ・沿道地域の主要な集落から主要な道路へのアクセスを踏まえた位置。
- ・病院・消防を踏まえた位置。
- ・避難階段や緊急出入り口等に配慮。



### <参考> 地方自治体の意見

- ICにかかる意見の抜粋
- 紀南病院に近い箇所をお願いしたい。
  - 災害時の輸送・避難等の防災面からも、熊野川両岸からのアクセスを可能にしてほしい。
  - 地域の産業振興や観光振興の促進が図られるようにしてほしい。

### <参考> 地域アンケート等での意見

- ICにかかる意見の抜粋
- 主要な道路への取り付けや市街地に近いところにしてほしい。
  - 病院・消防に近い位置にしてほしい。
  - 生活道路としての利用に配慮してほしい。
  - 集落へのアクセス・接続場所を考慮したIC配置が重要。

※1 東海・東南海・南海地震同時発生時における津波浸水予測図

# 5. 近畿自動車道紀勢線(新宮～大泊)における対応方針(案)

## ◆対応方針(案)

### 1. 災害時に強く時間短縮効果のある道路を整備する

(理由)

- 当該地域は、高い確率で発生が予測されている東海・東南海・南海地震時に津波による被害が想定され、また、現在の道路は脆弱で、台風時等において道路の寸断が多発していることもあり、災害時に強い道路の整備が不可欠。
- また、高度医療施設への速達性も低いため、時間短縮効果のある道路の整備が必要。
- アンケートや地域代表者ヒアリング等においても、災害に強く時間短縮効果のある道路の整備が必要という意見が多く、対応方針(案)に整合する。

### 2. 【案①】海側ルートを基本として検討

(理由)

- 【案①】海側ルートは、【案②】山側ルートに比べ、
  - ・災害時の適応性、集落へのアクセス性等利便性について優れている。
  - ・全ての政策目標の達成が見込まれ、「1. 災害時にも機能するネットワークの確保」「2. 地域防災に資する『いのちの道』機能の強化」「3. 高度な医療施設への速達性の向上」に特に優れている。
- また、アンケート及び地域代表者ヒアリング等での地域意見においても、「災害時の適応性」「医療機関への速達性」を望むものが特に多く、対応方針(案)に整合する。

### 3. その他

- IC配置については、地方自治体等の意見も踏まえて、地域の防災拠点へのアクセスと地域の主要道路との接続及び主要集落への利便性を重視し、地形条件等を考慮し設置する。
- 今後実施する具体の道路構造等の検討に際し、防災機能の観点から、避難階段や緊急出入口や、利便性の観点から、休憩施設や追越車線についても配慮する。
- 今後、整備に向けた検討にあたっては、沿線地域に貴重な文化的遺産が存することから景観、環境に配慮するとともに、地域の課題の緊急性等に留意する。



# 5. 近畿自動車道紀勢線(新宮～大泊)における対応方針(案)

## 【ルートの方針】

- ・津波浸水域を平面的に回避。やむ得ず通過する場合は十分な高さを確保。
- ・既成の市街地・集落・防災拠点へのできるだけアクセスしやすい計画とする。
- ・環境上配慮すべき地域、城跡・史跡、公共施設を避ける。

## 【IC配置の考え方】

- ・沿道地域の主要な集落から主要な道路へのアクセスを踏まえた位置。
- ・病院・消防を踏まえた位置。
- ・避難階段や緊急出入口等にも配慮。



※1 文献調査(レッドデータブック等)、現地調査により貴重種富集が確認されている範囲  
 ※2 東海・東南海・南海地震同時発生時における津波浸水予測図

## <参考> 地方自治体の意見

### 【ルートにかかる意見の抜粋】

- 地元住民が津波からの避難路として、また、東紀州防災拠点が活用できるように配慮すること。
- 津波からの一時避難場所として活用できるようにしてほしい。

### 【出入口にかかる意見の抜粋】

- 紀南病院に近い箇所をお願いしたい。
- 災害時の輸送・避難等の防災面からも、熊野川両岸からのアクセスを可能にしてほしい。
- 地域の産業振興や観光振興の促進が図られるようにしてほしい。

## <参考> 地域アンケート等での意見

### 【ルートにかかる意見の抜粋】

- 災害や救急面での効果を優先すべき。
- 可能な限り海側につく方が避難場所として機能する。
- トンネル構造が少ない方がいい。

### 【出入口にかかる意見の抜粋】

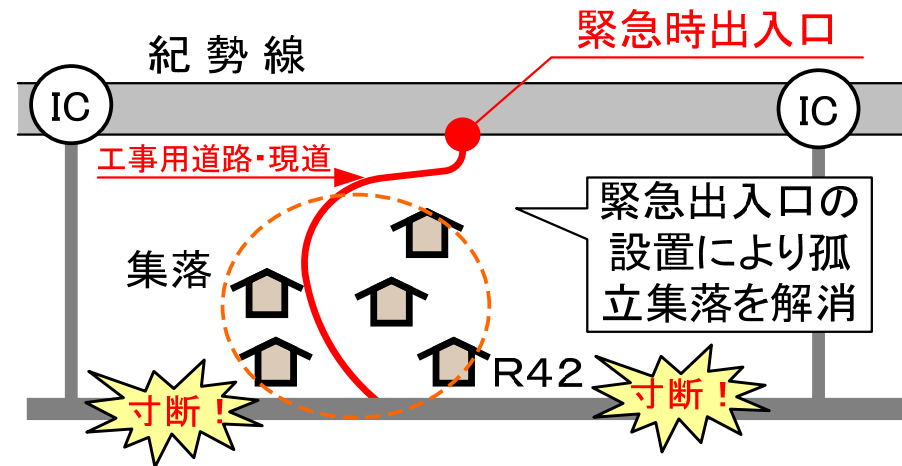
- 主要な道路への取り付けや市街地に近いところにしてほしい。
- 病院・消防に近い位置にしてほしい。
- 災害時に活用できるようにしてほしい。



# (参考)緊急避難路

- ・災害時における集落の孤立や迂回による社会経済活動など日常生活への影響を最小限にとどめるために、IC以外にも災害復興の支援として、緊急時出入口を設置する。
- ・紀勢線は津波浸水に対して、避難階段を設置することにより避難場所としての機能も期待できる。

- ・緊急時出入口: 緊急時のみ紀勢線への進入を可能とし、車両の出入口としての利用となる。トンネル施工時等に設けた工事用道路を存置し、緊急時出入口として活用する。
- ・避難階段: 土工部の盛土法面等へ避難階段を設置。



緊急時出入口等イメージ



緊急時出入口イメージ写真



避難階段（盛土部）イメージ写真